

1 学校教育目標 「豊かな心を持ち 個性に富み 逞しく生きる」児童の育成 ～自分が大好き、友だちが大好き、学校・地域が大好きな 東脊振の子～	2 本年度の重点目標 ① 自分づくりの推進(児童理解・支援の推進) ② 学びづくりの推進(道徳授業の推進と学力向上) ③ 仲間づくりの推進(豊かな体験活動の推進)
--	---

達成 A:ほぼ達成できた
B:概ね達成できた
C:やや不十分である
D:不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価							
①特色ある学校づくりの推進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校経営方針	本年度の重点目標の周知	・学校目標を知っていると答える教職員、児童、保護者90%以上にする。 ・メール登録を100%にする。 ・学級懇談会参加率40%以上にする。	・学校便り、PTA総会、学級懇談、学校ホームページ、まちCOMIメール等で機会あるごとに周知していく。 ・学級懇談会の前に、まちCOMメールで参加を呼びかける。	B	・上学年は、90%近くの児童が「知っている」と答える学級があったが、下学年は50%以下と低い。 ・メール登録100%は一時的に達成するが、携帯の買い換えや転入者等により登録率が低くなっている。 ・年度当初の懇談参加率は40%を超えるが、12月になると31%と激減して目標に届かない。	・学校目標を下ろしたものが、学級目標であるため、学級目標の理解が大切である。「学級目標を知っている」に変え、意識した学校生活を送らせるようにする。 ・月に1回は、登録調査を行い、未登録や「不達」を把握し、保護者への依頼を強化していく。 ・PTA学年委員さんと連携して、保護者同士の誘い合いも行った魅力ある懇談会計画を行ったりしていく。
	○校内研究の推進	・校内研究(道徳)の推進	・校内研究のテーマの下に、職員全員が主体的に研究に励む。 ・学年部と専門部に分かれて、担当の研究を責任をもって果たそうとする。 ・道徳の年間計画、別業を書き直す。 ・道徳科の評価の文例を作る。	・年度当初に、研究の指針を明らかにし、率先して道徳科の授業にチャレンジする。 ・学年部での授業検討、専門部での研究をする時間を確保する。 ・掲示物や道徳ノートの提案などをこまめに行う。 ・先進校を視察したり、講師を招聘したりして研究を深める。	B	・校内研究の年間計画通りに、授業研究を進めることができた。 ・二つの専門部を立ち上げ、その目的に応じて、研究をすることができた。 ・道徳ノートの利用に全校でチャレンジしたが、まだ十分に共通理解できていない部分がある。 ・先進校視察はできなかったが、教育センター等の研修を受けた職員はいる。 ・講師招聘を行い、理論的な研究の学びにつなげることができた。	・今年度の研究の課題をもとに、授業改善、道徳ノートの活用、授業での共通理解を深めていく。 ・今年度作成した教材のデータ等を利用し、よりよい授業実践に向けて、次年度の研究を深めていく。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・業務改善と衛生管理の改善、充実	・仕事にやりがいを感じている」と答える職員を90%以上にする。 ・定時退勤日の徹底と学校施錠19:00の日を90%にする。	・会議の時間縮減や内容を改善し、学級事務へ費やす時間を確保する。 ・業務記録管理ソフトで、勤務時間を把握し、声かけやチーム東脊振として支援する。	A	・仕事にやりがいを感じる職員は88%とわずかながら目標に達成できている。 ・平日19:00施錠は、ほとんどできず10分程度遅い時間の施錠になっている。金曜日18:00施錠は、少しずつよくなり50%位には、なってきた。	・職員の自己肯定感を高めるためには、称賛が不可欠である。また、困り感や変調に気づく「ラインケア」を強めていく。 ・平日19:00、金曜日18:00施錠のための取組を話し合い、実施していく。
②自分づくりの推進(児童理解・支援の推進)							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○生徒指導の充実	予防的・開発的な生徒指導の推進	・「よさを見抜き、認め、伸ばす」支持的風土のある学級、学年経営を基盤にし、自分のよさに気付かせ、自己肯定感を高めていく。	・教育相談的指導による問題行動や不適応への予防をする。 ・全職員による情報共有を行い、チームによる即時指導を徹底して行う。 ・児童理解の会等で、児童理解に努め、指導体制を整える。 ・予防開発的な部分については、指導例や活動例を示す。	B	・計画性および見通しを持ってSCを活用する事ができた。要配慮児童の問題行動や不適応に関して、予防や指導に効果的であった。関係職員による情報共有を行い、保護者対応や児童の指導に生かすことができた。 ・連絡会や児童理解の会で全職員による問題行動等の情報共有を行った。児童理解がよりいっそう進み、効果的な対応をすることができた。	・発達段階に応じた児童理解の方法や指導の方法を、事例をもとに共有していきたい。教育相談担当が中心となって、例示していけるようにしたい。
教育活動	●いじめの問題への対応	早期発見、早期対応体制の充実	・本校の学校いじめ基本方針を、いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルも含めて充実させ、対応の迅速化を行う。	・いじめの認知・覚知に対する教員意識を変えるため研修を行う。 ・毎月アンケートを実施し、早期発見ができる体制を作る。アンケート結果による学校や学級への不適応行動について、職員間の共通理解を図る。 ・開発的生徒指導により、自己肯定感を高め、良好な人間関係を形成していく。	B	・いじめ等を含めた生活アンケートを毎月実施した。些細なことでも自由に書くように促し、児童の不適応感の早期発見に努めた。 ・アンケートから把握できた事象については、学級担任や学年担任による指導にとどまらず、生徒指導主任や管理職からの指導、声かけを行うなど、早期解決に努めた。	・いじめに関する対応マニュアルを見直し、全職員で共通理解を図る。 ・いじめに関する事例研修を行い、指導力の向上に努めたい。
	●心の教育	・あいさつの励行 ・相手を思いやった言葉遣い	・「あいさつがよくなった」と言える児童を70%以上にする。(H29「4」評価は、54.4%) ・「～さんづけ」や「正しい言葉遣いができた」と言える児童をそれぞれ60パーセント以上にする。(H29「4」評価は、40.3%)	・毎月の生活朝会で話題にする。 ・児童会であいさつ運動に取り組み、意識を高める。 ・学習の場において正しい言葉遣いを身に付けさせ、普段の生活の場でも活かすようにする。 ・学校の取り組みを保護者に周知し、家庭と連携した取り組みを推進する。	B	・毎月の生活朝会で、あいさつの励行に関する声かけを行った。 ・あいさつがよくなった児童は88.1%だった。(自己評価) ・気になる言葉づかいがあればその場で直させるなど、全職員による指導を徹底した。 ・正しい言葉づかいができた児童は68.7%だった。(自己評価) ・運営委員会とボランティア委員会の児童が毎週水曜日に玄関に立って挨拶をし、2学期からは各クラスで当番で挨拶運動に加わることができた。	・本年度の指導を継続する。 ・児童の実態を保護者に知らせ、家庭との連携をとっていく。 ・進んで挨拶が気持ちよくできるような取り組みを工夫していきたい。

③学びつくりの推進(道徳授業の推進と学力向上)							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	学力向上につながるICT利活用の研究	・アンケート調査を実施し、ICT利活用により学習意欲が高まったという児童の割合を90%以上にする。	・教員同士で教材の開発を協力・共同で行い、常に改善できるような素地を作る。 ・道徳の時間にもICTを取り入れる。	B	・電子黒板を活用した授業は、どの教科でも児童にとってイメージしやすく、わかりやすいものである。それによって、意欲が高まっていると考えられる。 ・さらに意欲を伸ばすためにはパソコン教室やタブレットの活用が必要であろう。	・パソコン室のパソコンはデスクトップにし学習できるアプリをそろえる。 ・Wi-Fiを整備してタブレットと電子黒板の連携ができるようにする。
	●学力の向上	指導方法の改善	・教員の指導力を高め、「自分の学習に自信がある」と言える児童の割合を80%以上にする。	・「東脊振授業」の徹底。 ・学習指導において、学び合う活動の時間を積極的に取り入れる。 ・中学校と連携した「家庭学習ががんばろう週間」の実施。	B	・児童、保護者ともに80%以上の割合で成果を評価している。 ・学習指導において、「めあて」「学び合う活動」「まとめ」等を取り入れた授業づくりができています。 ・県学習状況調査【12月調査】において伸びは見られたものの、国語の読む力等が低い。 ・がんばろう週間の取り組みを計画的に実施した。保護者のコメントにも関心の高さが見られるようになった。	・読む力を身につけさせるための方策の共通理解と取り組みの徹底。 ・級外と担任とが連携して補充学習の充実を図る。
	○読書の定着	読書活動の推奨と積極的な図書館活用	・図書貸し出しの目標冊数を設定し、読書を奨励する。 (1年…150冊、2、3年…120冊、4年…80冊、5、6年…70冊) ・学年ごとの「お勧めの本20冊」を選定し、勧める。	・「図書館だより」を発行し、保護者にも関心を持ってもらえるようにする。 ・図書館まつりを年に3回実施し、貸し出しを勧める。 ・目標冊数を達成した児童名を掲示する。 ・読書の幅が広がるようことを目指して20冊を選定し、多くの児童が読むようカードを工夫したり、コーナーを整えたりする。	B	・低学年は、90%近くの達成率だが、中学年、低学年は70%に届かず、6年生に至っては50%未満と目標に達しなかった。 ・お勧め20冊は、1,4年生は50%を超えたが、2,3年生は30%前後であり、高学年は10%にも達していないため、「やや不十分」と言える。	・読書習慣の確立のため、より図書館に足を運ぶ機会を多く設けたり、家庭学習での取組を強化したりする。それとともに目標冊数を学年ごとに見直ししていく。 ・家庭との連携して読書の奨励を今後も継続していく。

④仲間つくりの推進(豊かな体験活動の推進)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教育活動	●健康・体づくり	運動機会の確保と規則正しい生活習慣の確立	・業間や昼休みにおいて、「元気に体を動かした」と言える児童の割合を90%以上にする。 ・「早寝」「早起き」の児童の定着率を85%以上にする。 ・児童の「朝食喫食率」は98%以上にする。	・外で遊ぶように休み時間に声をかけたり、体育委員会で学校みんな遊ぶ日を設定する。 ・お便りによる家庭への啓発をする。	B	・食育の一環として献立の紹介やよく噛んで食べることを促し、早寝早起き朝ご飯を呼び掛けたが、朝食喫食率は98%に達していなかった。	・朝ごはんの大切さを学級活動でも推進する。
	○家庭、地域との連携	地域と自分との関わり郷土愛	・「東脊振のよさを「低学年1つ以上、中学年3つ以上、高学年5つ以上」言える児童を90%以上にする。 ・クリーン作戦など地域の行事に、年2回以上参加する児童を90%以上にする。	・生活科や社会科、総合学習に地域素材を導入する。 ・学びの中で、人と自然にかかわる場面を設定する。 ・道徳との関連を常に考慮して指導する。 ・地域人材の活用 ・まちCOMメールで、地域行事参加を呼びかける。	B	・東脊振小学校のよさを言える児童は81%と目標に達しなかった。ただ、全校朝会での呼びかけや地域学習の結果目標達成に近いところにいる。こんごも「ふるさと教育」を意識した教育活動を行う必要がある。 ・地域行事への参加について72%とこれも目標に達していない。家庭や社会体育関係者との連携、協力が課題である。	・東脊振よさを至る所で、児童に紹介し理解を深めていく。また、よさを言えるように調査を行い、児童にその結果を知らせていく。 ・家庭にまちCOMメールで事前に知らせ、協力を要請する。
	○集会や縦割り班活動の充実	所属感や連帯感、互いを思いやる心の育成	アンケートを実施し、「学校が楽しい」、「思いやりや友だちを大切にしている」といえる児童の割合を90%以上にする。	・集会活動を通して達成感や連帯感を味わうことができるように、児童が企画・運営に携わる機会を増やしていく。 ・様々な縦割り活動の機会を捉え、全職員で声かけを行うことで、所属感を高めたり、互いを思いやる心の育成につなげたりする。	B	・集会委員会が中心となり、全校が喜ぶような集会を企画することができた。 ・縦割り活動では、上級生が下級生を助ける等の姿が見られ、相手のことを考えて行動することができた子どもが増えた。 ・学校での役割が少ないためか、中学年では、「学校は楽しい」の項目が他の学年より少し低かった。	・児童集会等で、学級の取り組みの紹介や全校が触れ合えるような企画を取り入れていく必要があると考える。

⑤小中連携の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教育活動	○小中連携	子供の活動づくり	・児童生徒会本部を中心として、小中合同の行事を充実させ、仲間意識の向上を図る。	・児童会、生徒会の交流を行う。(あいさつ運動、募金) ・中学校文化祭への参加(6年) ・除草作業を共同実施する。	B	・代表委員会で制作したポカモンのゆるキャラと一緒に挨拶運動をすることができた。 ・6年生が中学校文化祭で合唱発表した。 ・夏休みに同じ地区の児童生徒と一緒に除草作業できた。	・募金活動を一緒にする予定だったが、社会福祉協議会の赤い羽根募金ではなく、赤十字の白い羽根が災害支援の募金活動を一緒にするように計画をしたい。
		9年間を見通した教育活動の展開	・小中の授業参観を年3回は行なう。 ・教職員の交流を活性化させ、指導体制の連続性を図る。	・授業研究会等、各種研修会を合同で実施する。 ・生徒指導の決まり、学習の決まりの連続性を図る。 ・小中連携推進委員会を毎月開催する。	B	・年間1回の中学校授業参観を目標にしていたが、半数の職員しか参加できなかった。行事や出張等で教室を空けての参観ができなかったためである。研究授業に限らず、普段の授業でもOKと幅を広げることも必要である。 ・小中合同の研修会を計画的に進めた。また児童間交流も行い、指導体制の連続性を図るよう努めてきた。	・小中の垣根を低くして、自由に参観できる体制づくりを行う。 ・区長会へのお祝い文書の配布や民生委員会でのお知らせ等で地域での呼びかけ力を高める。 ・クリーン作戦等、学校放送で随時参加を呼びかける。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

○PDCAサイクルのもと、目標の進捗状況を分析し、各部で改善策を話し合い、全職員で指導を行ったので、少しずつその成果が表れつつある。この結果を職員で更に共有し、各部で改善するために具体的方策を立て、実践していく。
 ○今年度は、「学びづくり」「自分づくり」「仲間づくり」が昨年度の結果を受けた上で、学校目標に照らし合わせ、達成のために提案や実践を行うことで、職員間の連携が強化され、児童や家庭への啓発が少しずつ進んできた。全体的には概ねよい結果になっている。さらに来年度は、チーム東脊振としてこれまでに以上に教育活動をチームとして協働的、組織的に進めていくよう努めていく。
 ○本校の特色である「道徳教育の推進」のため、道徳の教科化にのっとり、「考え、議論する道徳」を推進していく。ボランティア委員会がさらに、児童の主眼的活動として位置づけ心の教育の推進を図っていく。
 ○本校の最重要課題は学力向上である。生徒指導上の落ち着きを最優先として考え、取り組みどの学級も落ち着いた学習ができています。児童も少しずつ意欲が高まり、学力調査の結果も向上しつつある。来年度は、具体的な数値目標を取組として、各学年国語と算数の2教科において具体的に数値目標を掲げ、職員が指導方法改善を喫緊の課題として捉えた学習指導を行っていく。また朝のスキルの改善・充実や学習スタイルのUD化を行っていく。また、家庭学習に対し意識が低い保護者に対し、家庭学習習慣の大切さを啓発したり、家庭学習の手引きの活用を促したりしてしていく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目

